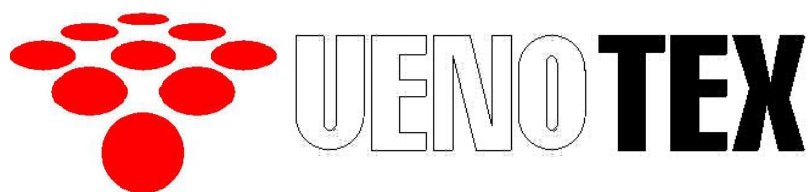


ウエノテックス株式会社

環境活動レポート

2013年度
(対象期間2012.10.1～2013.9.30)



環境活動レポート

ウエノテックス株式会社

I. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者名

ウエノテックス株式会社
代表取締役 上野光陽

(2) 所在地(本社・第1工場)

〒949-3298 新潟県上越市柿崎区柿崎 7396-10
TEL: (025)536-2266 FAX: (025)536-9836

(第2工場)

〒949-3298 新潟県上越市柿崎区 7325
TEL: (025)536-9869 FAX: (025)536-2759

営業所所在地

関東営業所

〒364-0013 埼玉県北本市中丸4-130
TEL: 048-590-1481 FAX: 048-590-1481

鹿嶋営業所

〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中2333-91
TEL: 0299-82-6769 FAX: 0299-82-6769

北陸営業所

〒923-0965 石川県小松市串町己35-2
TEL: 090-7088-4721

関西営業所

〒664-0027 兵庫県伊丹市池尻7-112-2-501
TEL: 080-6680-3051

(3) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者: 総務部 松村光雄

EA21事務局 : 営業技術本部 中村誠

連絡先: 〒949-3298 新潟県上越市柿崎区柿崎 7396-10

TEL: (025)536-2266 FAX: (025)536-9836

E-mail: daihyo1@uenotex.co.jp

(4) 事業の主な内容

各種産業機器・環境機器の設計・開発, 製造及びサービス提供

II. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 組織

対象事業所 : 本社、第1工場、第2工場、関東営業所、関西営業所

認証対象外 : 鹿嶋営業所、北陸営業所(業務委託のため対象外)

(2) 活動

対象事業所の全活動とする

(3) 事業規模

	単位	2011年度	2012年度	2013年度
		(2010.10.1~2011.9.30)	(2011.10.1~2012.9.30)	(2012.10.1~2013.9.30)
製品生産量(注1)	t	287	332	199
資本金	千円	55,000	55,000	75,000
売上高(注2)	%	90.8	114.0	113.0
従業員	人	99	99	99
床面積	m ²	8,390	8,390	8,390

(注1) 製品生産量は、主要製品である破碎機の重量換算値とする。

(注2) 売上高は、エコアクション21認証前年度(2005年度)を100%とする。

環 境 方 針

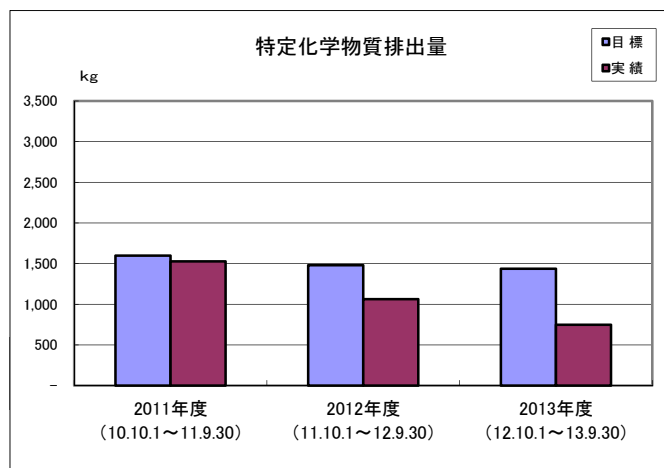
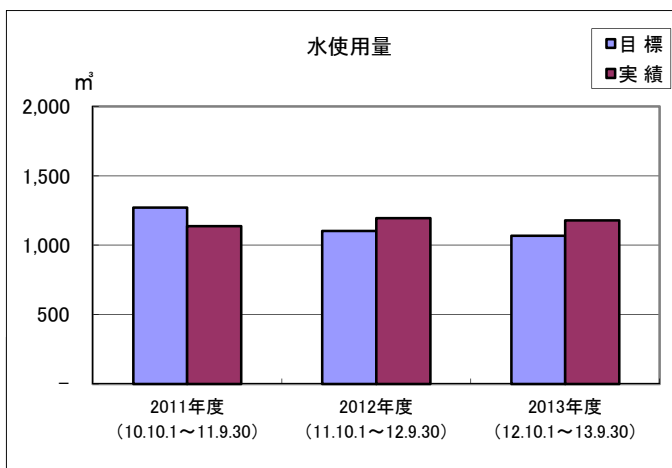
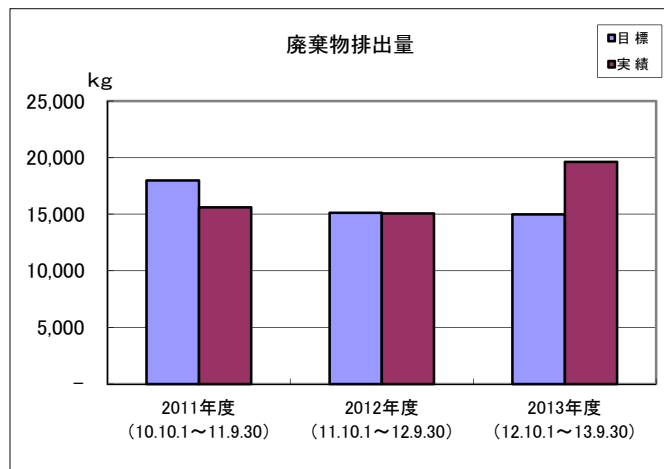
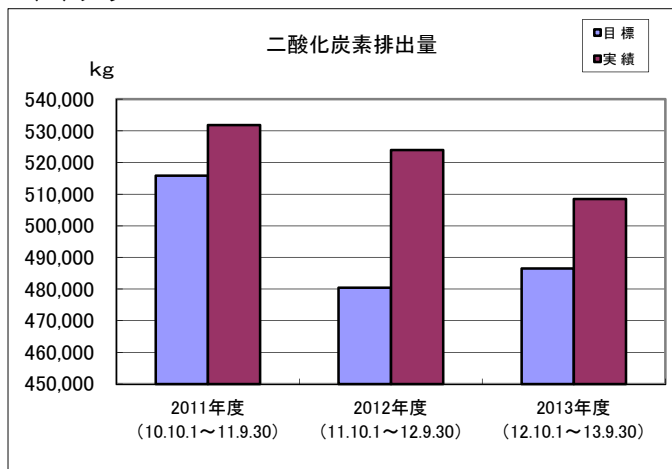
当社は、環境関連製品の開発を積極的に推進して社会に貢献するとともに事業活動における環境負荷を継続的に改善し、地域住民・顧客及び社員に信頼される会社であり続けるために、以下のことを行う。

1. 環境負荷の実態を調査し、環境目標を設定する。
2. 環境目標を達成するための具体的な環境影響を調査し、改善計画を策定し、実施し、成果を検証して、次の活動に繋げる活動を行う。
3. 適用される環境関連法規・条例・規制等を遵守する。
4. 社員の環境意識を高めるために必要な教育訓練を行う。
5. 環境負荷を改善するために、次の事項を重点的に推進する。
 - (1) 二酸化炭素排出量の抑制
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の節減
 - (4) PRTR法制度の特定化学物質排出量の削減

2012. 1. 23
ウエノテックス株式会社
代表取締役 上野光陽

Ⅲ.中期環境目標の実績

(1) グラフ



(2) 詳細データ

環 境 負 荷		2009年度	2011年度 (10.10.1~11.9.30)		2012年度 (11.10.1~12.9.30)		2013年度 (12.10.1~13.9.30)	
		実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
(1) 二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	558,527	515,833	531,817	480,442	523,948	486,461	508,415
(2) 廃棄物排出量	kg	19,894	17,984	15,606	15,138	15,072	14,983	19,633
(3) 水使用量	m ³	1,209	1,271	1,137	1,103	1,194	1,069	1,179
(4) 特定化学物質排出量	kg	2,164	1,597	1,528	1,482	1,063	1,436	749
(5) グリーン購入の推進	%	—	—	55	56	64	57	65
(6) 環境機器の出荷台数	%	—	—	100	101	114	102	104

※ 2011年度目標値は、2009年度の実績値を基準として毎年度3%削減した数値にしています。

※ 2012年度以降の目標値は、2008年度の実績値から12%削減した数値と2011年度の実績値から3%削減した数値の低い方を目標としています。但し、2013年度以降から関東・関西営業所の営業車及びロール紙を環境負荷に加えた事を考慮し、二酸化炭素排出量及び廃棄物排出量の目標値を再設定しています。

※ 二酸化炭素排出量の内、購入電力量は実排出係数0.429kg-CO₂/kWh(2010年度の東北電力実排出係数)を用いて算定しています。中期目標の3年間は同係数としています。

※ 廃棄物排出量は、水溶性廃油、コピー用紙、可燃物、不燃物の合計としています。廃棄物全量ではありません。

※ 二酸化炭素排出量の集計は、灯油、都市ガス、LPGは除いています。

2014年度
(13.10.1~14.9.30)

目標	実績
450,724	
14,202	
1,035	
1,391	
58	
103	

IV. 目標の実績評価

目標達成率(%)=(目標/実績)×100

総合評価 ◎: 目標達成率100%以上

総合評価 △: 目標達成率 90%以上100%未満

総合評価 ×: 目標達成率 90%未満

重点課題	2013年度目標値	2013年度実績	達成率	評価	結果の評価・考察
二酸化炭素 排出量の削減 (kg-CO ₂)	486,461	508,415	96%	△	電力使用量及び軽油の使用量が増えたため本年度の目標は達成出来なかった。原因は、出張作業と破碎テスト用発電機の使用の増加による。一方、ガソリンの使用量は年間走行距離の多い営業車を本年度4台ハイブリット車とし、二酸化炭素の排出量の削減に寄与した。
廃棄物排出量 の削減 (kg)	14,983	19,633	76%	×	水溶性廃油排出量とコピー用紙使用量は、本年度の目標を達成出来なかった。原因として、水溶性廃油排出量は工作機械のオーバーホールによる水溶性廃油の入れ替えや油性油の油漏れ発生による。コピー用紙は本年度ロール紙を削減項目に追加したが、昨年度の実績とほぼ変わらず削減傾向にある。
水使用量の 削減 (m ³)	1,069	1,179	91%	△	社員の節水に対する意識は高まっており、水使用量は昨年度より削減はしているが、目標達成には至らなかった。
特定化学物質 排出量の削減 (kg)	1,436	749	192%	◎	受注製品の塗装を昨年から継続してエコ塗料に切り替えた事が効果に繋がった。
グリーン購入 の推進	57%	65%	114%	◎	文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に積極的に変更した事が効果に繋がった。
製品サービス	102%	104%	102%	◎	破碎機の受注が好調であり、環境機器(破碎機)の出荷台数は目標を達成した。目標を達成する事で、環境への貢献ができた。

V. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1)取組結果と評価

環境目標	環境活動計画の内容	取組結果とその評価 (2012.10.1~2013.9.30)	次年度の取組内容
二酸化炭素 排出量の削減	作業工数の削減による電力使用量の抑制	生産事前検討会の実施回数を増やし、事前に無駄な作業工数の削減を図った。	設計改善及び不良品削減の活動を強化し、無駄な作業工数を削減して電力使用量を削減する。
	アイドリングストップ、省エネ運転	エコカー以外のアイドリングストップ及び省エネ運転は、社内への徹底を実施。エコカーはアイドリングストップのものを選択した。	引き続き、省エネ運転の励行を改めて全社員に徹底する。
	社用車の省エネ車への切り替え	年間走行距離の多い営業車を本年度4台ハイブリット車に切り替え、効果が高かった。	引き続き、エコカーへの切り替えを検討していく。
廃棄物排出量 の削減	一般廃棄物排出量の削減	図面変更を削減する活動が効果として出ている。	引き続き、図面変更の削減をさらに徹底し、コピー用紙の使用量を削減する。
	分別収集、保管管理の徹底	分別表示を維持し、保管管理を確実に実施することによって目標が達成出来た。	引き続き、分別収集を徹底する。
	水溶性廃油排出量の削減	工作機械のオーバーホールや油漏れにより目標が達成出来なかった。	工作機械の油漏れに対する修理未実施機は修理する。
水使用量の 削減	節水の励行	昨年度より削減しているが、目標を達成出来なかった。	引き続き、節水を励行する。
特定化学物質 排出量の削減	エコ塗料への切り替え	受注製品の塗装を昨年から継続してエコ塗料に切り替えた事が効果に繋がった。	エコ塗料の使用を継続するとともに、さらに推進する。
	塗料使用量の削減	小物部品は、エアレスではなくローラ塗りや刷毛塗りとする事で、塗料の使用量を削減できた。	従来活動を継続するとともに、一回に使用する塗料を必要最小限とするために指定膜厚の順守を徹底する。
グリーン購入	文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に変更	文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に変更し、昨年度の64%から65%にできた。	引き続き、文具、事務用品をエコマーク対象商品またはグリーン購入法適合商品に切替えていく。
製品サービス	破碎機出荷台数の増加	破碎機の受注が好調であり、昨年度より出荷台数が4%増加した。	引き続き、破碎機の出荷台数を伸ばしていく。

従来から活動を継続して実施し、今後も活動を継続する下記項目は上表から削除しました。

●二酸化炭素排出量の削減

- ・設備無負荷運転時間の削減
- ・設備の適正運転
- ・工場エア漏れ防止

- ・冷暖房エネルギーの削減

- ・照明電力の削減

- ・PC等OA機器の不使用时の省電力化

●廃棄物排出量の削減

- ・ペーパーレス化
- ・両面コピー、裏紙利用

●水使用量の削減

- ・水道水出し過ぎの厳禁

VI. 環境関連法規制の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

(1) 法的義務を受ける環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制
騒音規制法
振動規制法
廃棄物処理法
PRTR法
浄化槽法
消防法
労働安全衛生法
高圧ガス保安法
グリーン購入法

※環境関連法規等の遵守状況の定期評価の結果、環境法規制の逸脱はありません。
関係当局からの違反等の指摘及び地域からの苦情は過去3年間ありません。

VII. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 環境方針

現状のままとする。

(2) 環境目標・環境活動計画

二酸化炭素、廃棄物、水、特定化学物質の各項目毎に削減率を検討すること。
破砕機の客先からの処理品は、営業から客先へ返却するように依頼すること。

(3) その他の環境経営システム

環境経営システムは、現状のままとする。
エコアクション事務局員は、公害防止管理責任者の資格を取得すること。

Ⅷ. その他の取組

(1) 防災訓練の実施

第1製造部・生産管理部・営業技術部
2013/9/10実施

① 消火放水訓練



② 消火器使用訓練



③ 負傷者救助訓練



第2製造部
2013/9/17実施

① 消火放水訓練



② 消火器使用訓練



③ 負傷者救助訓練

